

議 事 録

会議名	平成23年度第2回寒川町スポーツ振興審議会		
日 時	平成23年8月4日(木)14時～16時	開催形態	公開
場 所	寒川町民センター展示室Ⅱ		
出席者	委 員：青田正順、石黒秀樹、井上隆男、 大川勝徳、喜多村出、山田寛、三澤敬機（敬称略） 事務局：鈴木教育次長 吉川スポーツ振興課長 亀井スポーツ振興担当副主幹 三留スポーツ振興担当主査 傍聴者：なし		
議 題	(1) 寒川町スポーツ推進計画について		
決定事項	議事録承認委員の指名について 大川勝徳委員 山田寛委員 議題(2) 寒川町スポーツ推進計画について パブリックコメントを実施するための計画案に対する審議会 意見を確定。 その他 予備開催としていた8月11日(木)の審議会は開催しない。		
議 事	1 開会 (吉川課長) みなさんこんにちは。ご多忙のところご出席いただきありがとうございます ございます。 寒川町スポーツ振興審議会委員10名のところ、本日7名の方 の出席がありますので、スポーツ振興審議会条例第7条第2項の 規定により、ただいまより平成23年度第2回審議会を開会しま す。 2 あいさつ (青田会長) 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。 前回の審議会の中で、早急に審議会を開催すべきだということ で、今回お集まりいただきましたので、よろしくお願ひします。		

(鈴木教育次長)

みなさんこんにちは。

本日はお忙しい中、また暑い中ご出席いただきありがとうございます。

前回の第1回審議会に出席できず、誠に申し訳ありませんでした。委員のみなさまにおかれましては、日頃よりご尽力いただき御礼申し上げます。

本日は、スポーツ推進計画策定に向けてのご審議、よろしくお願いいたします。

また、今スポーツ振興課が行っている事業の近況ですが、まず町営プールにつきましては、7月16日にオープンし、これまで事故もなく無事運営しています。ただ、天候不良ということで入場者数については、思ったより伸びていない状況です。

体育の日のイベントにつきましては、関係団体と調整を進め、開催に向けての準備については、順調に進んでいます。

以上簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。

3 議事録承認委員の指名

(青田会長)

本日の議事録承認委員に、大川委員と山田委員を指名します。

4 議題

(1) 寒川町スポーツ推進計画について

(青田会長)

前回の審議会以降、スポーツ推進計画の内容について各自読み込んでこられたことと思いますので、みなさまのご意見を聞きながら、審議会としての意見を固めていきたいと思えます。

本日の進め方としては、素案の1ページ目から順を追ってご意見をいただくという方法でよろしいでしょうか。

(委員全員)

異議なし。

(青田会長)

1ページ目の「第1章 計画策定にあたって」ついていかがでしょうか。

(大川委員)

5行目の「さらなるスポーツ振興を図るための施策が展開しています。」ではなく、「施策が展開されています。」ではないでしょうか。

(山田委員)

主体は、寒川町ですか。

(大川委員)

「施策を展開しています。」の方がいいですか。

(青田会長)

それでは、「施策を展開しています。」とします。

(山田委員)

8行目の「60年ぶり」は、「50年ぶり」が正しいのでは。

(亀井副主幹)

「50年ぶり」が正しいです。

(青田会長)

続いて2ページ及び3ページに進みます。

(井上委員)

「さむかわ2020プラン」の後期実施計画は、策定途中であると思いますが、それと兼ね合いはどうなっているのか。

まだ、町民に説明している段階と認識しているが、それによって変更があった場合どうなるのか。

(亀井副主幹)

今、計画案についてのパブリックコメントを実施していますが、スポーツについての将来像は、大きな変更は無いと考えていますので、スポーツ推進計画はそれを目指していくこととなります。あとは、個別の事業を総合計画と合わせて実施していくこととなります。

(喜多村委員)

前回の中で、国の基本計画がまだ策定されていないということでしたが、町の計画には、今後国の計画理念を取り組むとなっており、それとの整合性はとれていくのか。

(亀井副主幹)

取り込めるものは積極的に取り込み、そうでないものは無理をしてまで取り込んでいくという事にはしない、というふうに考えています。そういったことも踏まえて、見直しを3年ごととしています。

ちなみに、先日政令により、「スポーツ基本法」が平成23年8月24日に施行する事となりました。

(青田会長)

現状では、こういった位置付けとなっていますが、状況によって変わっていくということですね。

続いて、4ページから15ページまでの第2章で、何かご意見はありませんか。

(亀井副主幹)

少し説明させていただきますが、今回の法改正により当計画策定予定の3月には、「寒川町スポーツ振興審議会」という名称が

変わっている場合があります。その場合には、新たな名称に替えて記載させていただくこととなりますので、事前にご了承ください。

(青田会長)

審議会の目的、活動については、変わらないのですね。

(亀井副主幹)

そのとおりです。

(吉川課長)

審議会の名称変更の他にもう1点、4ページの活動団体・指導者の中で、「体育指導委員」と記載されていますが、審議会同様、名称の変更があることもご了承ください。

(喜多村委員)

4ページに「ニュースポーツ」と出てきますが、これは何を指しているのですか。それから、「体育指導員」の変更後の名称がわかっているのならば教えてください。

(吉川課長)

まず体育指導委員の名称変更についてですが、変更後は「スポーツ推進委員」という名称になります。

(亀井副主幹)

4ページについては、現状についての記述となっておりますので、「体育指導委員」となっていますが、計画の後半には、注意書きで新しい名称が記述されています。

また、「ニュースポーツ」というのは、比較的近年生まれたスポーツで、代表的なものとして、ゲートボールやグラウンドゴルフなどがそうです。年齢を問わず、気軽に親しめることができるものが多く、また、町独自のスポーツを生み出すことも可能です。

主に体育指導員の方々が、高齢者や障がい者、また子どもたちの団体などの下に出向いて、普及しています。

(喜多村委員)

「ニュースポーツ」という言葉や考え方は、町民の中では充分意識されているものなのですか。

(亀井副主幹)

前計画にも記述されていますし、レクリエーションフェスティバルなど町の事業でも紹介しています。歴史はそう古くはありませんが、ここ数年に生まれたものでもないもので、ある程度の認知度はあると考えています。

(井上委員)

主に高齢者がやっていますよね。グラウンドゴルフとかペタンクなどがそうですね。7ページ青少年広場の多目的広場の利用者が増えたのも、その影響であると思います。

(喜多村委員)

注意書きを加えなくても、充分認知されているということですね。

(青田会長)

書ける場所があったら、書いた方が良いですね。ただ、全部の種目を書くわけにはいかないの、例としていくつかの種目とニュースポーツとはこういうものだということを書いた方がわかりやすいですね。

(吉川課長)

スポーツ振興課としては、イベントや体育指導委員との事業の中で、ニュースポーツの普及に努めてはいますが、より多くの町民に周知するためには、説明書き加えることも大事であると考えます。

(亀井副主幹)

記述方法ですが、文章の中に盛り込むのか、欄外に注意書きとして記述するのかとなった場合、どちらがよろしいでしょうか。

(青田会長)

欄外への記述が、良いのではないのでしょうか。

(亀井副主幹)

欄外への記述といたします。

(青田会長)

15ページまでの内容で、その他ご意見等はありませんか。

(三澤副会長)

先程、寒川独自のスポーツを生み出すと言ってましたが、具体的な計画はあるのですか。

(吉川課長)

今現在、具体的な計画はありませんが、今後そういった事も進めていくことは可能であるということです。

(大川委員)

12ページの下段の説明書きで、「環境を配慮した省エネ推進している中」とありますが、「省エネを」ではないのでしょうか。

(吉川課長)

「省エネを」が良いかと思えます。

(青田会長)

前後してもかまいませんので、16ページからの第3章についてもご意見いただけたらと思います。

(喜多村委員)

12ページの説明の中で、「していない」という回答が15%弱となっており、その理由が経済的な状況により節約の傾向があるとしていますが、15ページのスポーツをしない理由には経済

的な状況だけではなく、場所や施設がないと言う理由も増えていきますので、施設が足りないということも記述したらどうか。

(亀井副主幹)

12ページについては、ゴルフやハイキングなどの広域的に行うスポーツであり、15ページの回答については、競技性のあるもの、広域的なもの、軽い運動全てを対象としていますので、町内という身近な場所に施設が無いからという理由にはならないかと思います。

(喜多村委員)

12ページの「していない」という答えの問の中には、理由を記入するところがあったのですか。

(亀井副主幹)

記入欄はありません。理由については推測です。

(大川委員)

推測でしたら、「その影響で」を削除し、また他にも、理由が考えられるので、「節約する等の傾向があり、「していない」人が～」としたらどうでしょうか。

(吉川課長)

ご指摘のとおり修正したいと思いますが、いかがでしょうか。

(山田委員)

所得格差といったものを感じます。費用を節約する反面費用のかかるスポーツも伸びており、2極化しているのでしょうか。ただし、していない人たちの理由としては、そうなのかなとは思っているので、修正案ままで。こういった表現の仕方というのは、悩ましいものですね。

(青田会長)

それでは、修正案のとおりとします。

スポーツにかかる費用は、削られていく傾向にありますよね。

(喜多村委員)

15ページの「運動・スポーツは嫌い」の回答率が高くなっているのは何故ですか。

(青田会長)

回答数が多かった年齢層は、どこですか。

(亀井副主幹)

50代以上が大半を占めています。

(井上委員)

前回も同じような傾向でしたか。

(亀井副主幹)

前回調査の回答数の記録が残っていないので、わかりません

が、他の町の調査でも高齢者の回答率が高いことが多いので、傾向としては同様であったと思います。

(石黒委員)

前回も本質的には同程度の割合で「嫌い」と思っている人が存在していたが、社会的にはっきりと「嫌い」と言い切れる時代となったため、回答率が上がったと、個人的には思っていますが。

10年で町のスポーツ環境が、そんなに変わったとは思えませんよね。

(青田会長)

昔ははっきり言えなかったが、言えるような時代となったということですかね。

第3章以降は、いかがでしょうか。

事務局に質問ですが、「湘南ベルマーレ」という特定の団体名が多く登場しますが、「湘南ベルマーレ」も1つの総合型スポーツクラブと捉えた時に、平塚市を母体とした1団体を記載するのか、もっと広く捉えて他の市町村にある協力団体も含めて記載するのか、どちらなのでしょう。

(吉川課長)

「湘南ベルマーレ」には、町内小学校での巡回指導、Jリーグホームゲームでの寒川ホームタウンデーなどレベルの高いプロスポーツ団体の協力を得ているということで、記載をしています。

(青田会長)

20ページでは、「湘南ベルマーレなどの協力を得ながら」となっており、他の団体も含めた表記となっているのに、30ページでは「湘南ベルマーレ」と特化された表記となっているのがどうかということなのですが。

(吉川課長)

30ページでは、個々の団体のより具体的な表記を**しています**。20ページでは、子どもたちへのきっかけづくりをしている団体は「横浜ベイスターズ」など他にもいくつかありますが、学校巡回指導など代表的な団体が「湘南ベルマーレ」ということで、「湘南ベルマーレなど」という表記にしています。

(青田会長)

「横浜ベイスターズ」という事になるならば、「湘南ベルマーレ」ではなく、「プロスポーツ団体」という表記の方が良いのでは。

(吉川課長)

表記を変えた方が良いというのであれば、修正していきたいと思います。

(三澤副会長)

会長の言いたいのは、30ページについては、表題は固有の名称ではなく、内容の中で例として固有の名称を使うほうがよいということだと思いますが。

(石黒委員)

「湘南ベルマーレ」には、資金提供はしているのか。

(吉川課長)

していません。

(石黒委員)

それならば、載せないほうがよいのではないか。

(吉川課長)

資金提供はしていませんが、先に申しました、学校巡回指導や寒川ホームタウンデーの実施、また町事業への協力をいただいています。

(青田会長)

役割として並んでいる中、チーム名として表記されていることが、違和感があるところです。他の外部団体の協力もあるわけですから。

(吉川課長)

20ページの「湘南ベルマーレなど」の表記を変更すればいいですか。

(青田会長)

20ページについては、「など」となっているので良いと思います。変えるのは30ページで、これは表題となっているからです。

(吉川課長)

それでは、30ページの「湘南ベルマーレ」という記載部分について、修正いたします。

(井上委員)

表題は変えるとしても、内容の中には、子どもたちに夢を与える、「湘南ベルマーレ」というプロスポーツの団体名を表記することは悪くないと思います。

(亀井副主幹)

湘南地区ですし、イメージしやすいということで、具体的な名称を記載したのですが。

(青田会長)

「湘南ベルマーレ」に頼りすぎると、地域性が無くなってしまふのかなど。ただ地域外の協力も必要だと思うので、例として記載されるのならば、良いのかと思いますが、他の外部団体も協力してくれるような含みも持たせたほうが、よりいいのでは。

(吉川課長)

それでは表題を変え、内容もそれに合わせたものに若干修正するという事にいたします。

(青田会長)

24ページの②の「スポーツ大会の開催」というのは、町が積極的に主催や後援を行うという意味なのですか。

現状は、体育協会を構成する個々の協会が開催している大会に対し、後援し、会場を提供しているかと思いますが、それより進んで、町が大会を誘致したり、大会自体を開催するという理解で良いのでしょうか。

(吉川課長)

スポーツをする機会の場の提供という役割がありますので、開催できる機会があれば開催し、競技力を上げていくという意味で、記載しています。

(青田会長)

今までは、次の③のイベントの開催を主として行っていくものかと思っていましたが、これからは大会開催にも力を入れていくということでもいいのですね。

(吉川課長)

イベントは機会の提供、大会開催については、競技力向上のための支援ということで、事業を進めていきたいと考えています。

(青田会長)

①のスポーツ教室の開催ですが、町の施設で行っている民間の教室への支援も考えているのですか。

(吉川課長)

町の教室はきっかけづくりであって、民間の教室へ繋げていくことはありますが、きっかけとなる突破口として考えています。

(青田会長)

町の教室は、きっかけへの切り口としてやるもので、民間は民間でやるということですね。

(吉川課長)

今までは、成人向けの教室の開催だけでしたが、平成23年度からは、親子を対象とした教室を始めました。これは、親子のふれあいも含めて、スポーツを楽しんでもらうということを意図しています。

(青田会長)

23ページの③効果的な広報活動についてですが、どの年代に的を絞った広報活動なのか見えない。子どもを対象とした事業なら子ども向けの広報紙、高齢者を対象とした事業なら高齢者向けの広報紙でお知らせするなど、関連部署と連携して広報活動を行

うなどの具体的な記述が足りないのではないのか。今のままでは、漠然としている。

(吉川課長)

広報やホームページだけでは不十分ですし、的を絞った広報活動も必要であると考えています。今後の広報活動に参考にしていきたいと思います。

(青田会長)

22ページの①スポーツボランティア登録制度の確立についてですが、この制度をどの程度有効活用できるのかが重要ですよね。登録者をオープンにして、地域で指導資格を持った人材をどれだけ地域で活用できるか、周知する方法もこの中に記述する方が良いのでは。

(井上委員)

中学校の部活動の関係ですが、学校によっては生徒数の減少により、部の選択肢が限られてしまい、入りたい部に入れられないということがあるので、この制度を活用し、そういった生徒にやりたいスポーツをやらせてあげたい。

(吉川課長)

まずは、制度を確立したいということで、文書化しました。

県の支援者登録制度は、充実していると思いますが、地域に潜在する指導者を把握し、相談があった場合に紹介していきたいという意味を込めて掲載しました。

(亀井副主幹)

具体的な進め方については、町の総合計画の個別事業で進めていき、どんな内容なのか、実施した結果の評価はどうかなどについては、当審議会において報告していくところです。本計画には、基本的な考え方を記述しています。

(青田会長)

制度の運用的な部分が見えなくて、どうやって周知していくかをこの中に記載したほうが良いのではないかと。

(亀井副主幹)

周知については、ここではなく、次ページの効果的な広報活動の中で進めていくことになります。

(青田会長)

そこは、もう既にやっていることを載せているのですよね。支援体制については、周知されていないと思いますが。

(亀井副主幹)

そうではなく、意図するものは、広報とホームページだけでは足りないということで、それを補うためにはどうしたらいいのか考えていこうということを言っています。アンケート調査の中で

も、実際に行っている事業であるにもかかわらず、知らずに要望されたりしていますので、広報やホームページだけでは足りないということであると思います。

話は変わりますが、今実施している事業は、個々の事業ごとに括られています。今後はこの計画の事業の進め方として掲載している、ローマ数字のⅠからⅢまでの内容の事業に統合して、その中で個々の事業を進めていく予定で調整しています。

(青田会長)

今後、スポーツ団体が町と一緒にやろうとする時はこの計画を基にやっていくのですよね。

(亀井副主幹)

町からの一方的な進め方ではなく、協働ということで進めていきたいと考えています。

(青田会長)

26ページの施設の充実のところに、利用人口に見合った施策や要望の多い施設の整備などを反映できるものなのか。

また、今ある団体を利用するだけでなく、育成についても考えてもらいたい。

前回も話題になりましたが、21ページの目標達成のための指標について結論が出ていませんので、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(亀井副主幹)

表現のしかたとして、プラスの表現とするのかマイナスの表現にするのかは別として、目標とすべき指標としては適切でしょうか。

(大川委員)

この指標は、達成可能なものなのか、それとも厳しいものなのですか。

(吉川課長)

率直な話、簡単ではないと考えています。町の教室や事業に参加する人は以前にも参加したことがある人が多く、全くスポーツをやらない人に参加してもらうことは大変難しい状況です。

(大川委員)

わたしも難しい指標であると思います。アンケートの中でウォーキングをしている人が、42.0%ということですが、さむかわ中央公園や寒川神社から一之宮公園にかけてなど、ジョギングやウォーキングをしている人が多く見受けられます。その途中途中に、距離の表示があると目安になり、やる人が更に増えるのかなと思っているのですが。

(石黒委員)

指標とする数値目標より、それ以降の事業の進め方についてが大事だと思います。今まで無かった、スポーツボランティア制度の確立などは、是非力を入れて進めていただきたいと思います。

ただ、施設の清掃などは利用者がやればいいことで、ボランティアとしては、指導的な事ができる人を登録することで良いと思います。

(亀井副主幹)

ここで言っているボランティアは、登録された人が全ての事について支援するというのではなく、指導的な支援、施設の維持に関する支援、イベントの運営に関する支援といったように、それぞれの役割別に登録してもらうことを意味しています。

(青田会長)

この指標というのは、計画上大事なことなのですよ。

(亀井副主幹)

達成困難な指標かもしれませんが、目標とする数値を設定しないと、事業の効果を検証できないと思うのですが。

(青田会長)

数値的なものは別として、プラスの表現がよいのかマイナスの表現がよいのかを決めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(亀井副主幹)

前日も申しましたが、やっていない人をどうにかしたいという気持ちから、していない人を15%にするというマイナスの表現としたのですが。

(井上委員)

一般町民が、この文章を見た時にアンケート調査の結果を知った上で見るわけではないので、やる人85%というプラスの表現にした方が良いとは思いますが。

(青田会長)

山田委員にお聞きしますが、県が計画を作る場合は、こういった表現にするのでしょうか。

(山田委員)

県の場合は、運動する人85%という表現にするでしょうね。
近年「スポーツ」という概念が変わってきており、通勤時の歩行速度を上げるというだけでも、スポーツをしたというとらえ方もでき、そうなればおのずと数値も上がってくるので、県もどういった表現とするか検討しています。

(亀井副主幹)

アンケートの自由記入欄を見ると、同じように歩く事はしているのに、ある人は運動していない、またある人は運動していると

いったように、個々の感じ方によって回答が異なっているようで、一概にスポーツをしない人が29.8%なのかという言い切れない部分もあるのですが。

(山田委員)

ちなみに県としては、30分以上の運動を週間1回以上の実施率50%にするというのが、課題なのですが。

(青田会長)

現実的には、その程度の目標ですよね。ちょっとハードルが高いかなと思いますが。

(石黒委員)

していない人15%のほうが、インパクトがありますよね。

(青田会長)

元気なだけでできない人だけならばよいのですが、身体的な理由からできない人というとらえ方をされてしまうと、問題があるかなと思いますが。

通勤時の30分の歩行を「スポーツ」としての定義としていくなら、目標指数に近づきますよね。

(井上委員)

回答者のアンケートの捉え方ですよね。

(亀井副主幹)

今後、アンケートを行う場合、スポーツの定義をはっきり示せば、より正確な数値が得られるのかなと思います。

(山田委員)

そう見ていくと、「その他の軽い運動やスポーツ」というのをどこまで含めるかということで、変わっていくのかなという気がします。

21ページの3行目の「スポーツをしたくない人を1人でも減らしていく」というところで、どういったアプローチをとっていくのかというところですね。子どもたちがスポーツをしなくなったのは、「スポーツは辛いものだ、きついものだ」という感覚を持っているからで、今の学校体育の基本的な考え方というのは、「体を動かすというのは気持ちがいいんだよ」ということを体験させていこうというのを強調しています。なので、町の施策としてどう達成していくのか興味のあるところです。できない人を出るようにするという条件整備は、わかる気はしますが、したくない人をどうしていくのかなというところです。それがニュースポーツの導入というところなんですかね。

(吉川課長)

そういうことになります。

(亀井副主幹)

今、町のイベントでは保育を取り入れていないので、育児中の人への対応、また時間帯や開催日なども再検討し、就業者への対応を進めていくことで、やりたくてもできない人を減らすことができると思います。

(大川委員)

している人85%ですかね。

(青田会長)

したくない人とするなら、指標は0%とするべきでは。

(山田委員)

このところは、理念として全ての町民がスポーツの楽しさを味わえるぐらいのところなのかなと思います。すくなくともスポーツをしたくない人というのを無くしていくんだらうと。

(青田委員)

やる人100%ではいけないのですか。

(亀井副主幹)

理想を載せるか、現実的な線とするかだとは思いますが。

アンケートを見ると、年齢的なものや障がいがあるなど、改善しても困難なところだと思いますので、100%とするのは無理ではないかということです。

(青田会長)

体を動かす事だけではなく、スポーツ観戦も含めて、スポーツを楽しむ人85%というのはどうでしょうか。

(亀井副主幹)

明るい未来に向けてまい進していくのか、課題を克服して対策を考えながら進めていくかで、表現が決まっていくのではないかと思います。対策となると行政側の考え方となってしまうのですかね。今、行政側だけではなくて、住民協働という時代なので、町全体で明るい未来に向かっていくのかなとも感じますが。

(喜多村委員)

表現としては、積極的な表現の方がいいとは思いますが、数値化するのには、義務づけられているのですか。

(亀井副主幹)

義務ではありませんが、基準という意味で、基準がなければ見直しはできないと考えています。

(石黒委員)

前回の計画には、表記されていたのですか。

(亀井副主幹)

前は、ありませんでした。

(石黒委員)

全計画を評価する中で、指標はあったのでないですか。

(亀井副主幹)

個々の事業にも目標値があり、それによる評価であって、計画全体での指標は設定していませんでした。スポーツに関する計画での指標の設定は、今回が初となります。

(青田会長)

「スポーツを楽しむ人」や「スポーツを楽しみたい人」という表現でいいんじゃないですか。そうすれば、観る人やる人を含めて、85%とすることができると思います。

(石黒委員)

この計画は、誰が見るのですか。

(亀井副主幹)

町計画なので、全町民ということとなります。

(石黒委員)

それでは、500部とか、1000部とか印刷するのですか。

(亀井副主幹)

町のホームページでの公開と、何部かは印刷しますが多くは印刷しません。印刷会社に頼むのではなく、役場内での印刷となりますので、希望に応じて印刷して、提供するということとなります。

(青田会長)

多くの意見が出ましたが、この辺で決めたいと思います。

それでは、多数決としたいと思いますが、「スポーツを楽しむ人85%」が良いと思う方は、挙手をお願いします。

※出席委員7人中6人挙手

(青田会長)

ということで、「スポーツを楽しむ人85%」を指標としたいと思います。

(亀井副主幹)

それでは、指標の変更とそれに関連する文章を修正します。

(青田会長)

前回の審議会で予備日として8月11日(木)の開催を予定していましたが、今回意見が出尽くしたかと思しますので、予備日としての審議会は開催せず、事務局により計画素案の修正を進めてもらいたいと思います。

5 その他

(青田会長)

その他何かあります。

	<p>無ければ、事務局よりあればお願いします。</p> <p>(吉川課長)</p> <p>前回のお渡しした、審議会のスケジュールですが、この間「スポーツ基本法」の施行日が確定したことにより、若干の変更があります。当初、9月の下旬から10月上旬に審議会を開催する予定でしたが、法改正に伴い9月議会において寒川町スポーツ振興審議会条例を改正することとなりましたので、次回の審議会については10月21日以降となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>(亀井副会長)</p> <p>10月下旬に審議会を開催し、そこにおきまして町の手続きを経たパブリックコメント用の確定案を提示し、その後パブリックコメントを開始いたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>6 閉会</p> <p>(吉川課長)</p> <p>長時間に渡りご審議いただきありがとうございました。</p>
資 料	なし
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p>大川勝徳委員 山田寛委員</p> <p>(平成23年 月 日確定)</p>

スポーツ振興審議会